

5) イタリア (バチカン市国) 7月19日から7月21日
ミュンヘン MUC16:55(LH1846) ⇒ローマ FCO18:25

ルフトハンザ LH1846 便はエコノミーの利用である。スターアライアンスの世界一周ルートに組み込まれていないコースはフライトの予約を別にする。ミュンヘンとローマの往復はこのケースである。EU 圏内の移動はいわば国内移動と同じようなので手荷物チェックぐらいだったように記憶している。

ミュンヘン空港の到着ロビーは閑散とした感じだったが、出発ロビーは人が多い。ルフトハンザのラウンジを訪れる。エコノミークラスでもスターアライアンスのゴールドメンバーはラウンジを利用できる。ゆとりをもって空港に早めに到着しておくこととフライト時間の変更、特に早い時間への変更は慌てなくて済む。ドイツではビールとプレッツェルは外せない、写真には出ていないが何種類かのソーセージ・ハム・チーズもそろえている。夕食にはまだ早い、この後時間の都合で夕食にはありつけないかもしれない？もちろん、エコノミーの食事もあてにはできない、フライトまでの時間ラウンジミニ宴会でもしておこう。



ローマ・フィウミチーノ空港に到着したのは午後6時半、北緯42度さすが夏のヨーロッパまだまだ明るい。空港からローマ市内へは空港特急を使う、この列車は全席ファーストクラスらしいが、席はJR大和路快速の方が明らかに上である。で、駅で往復券を購入して乗り込む、改札(切符を切る)は自らするのが掬らしいが空港から乗る場合は必要なかった。さて、ローマでの宿は到着時間を考慮してローマ駅に近い場所、徒歩で5分もかからない所にした。ホテルは古き昔の良き時代を残した趣のあるホテルで、アップグレードしてもらいベッドルームが別の2部屋ある。ラッキー！



ローマ空港線の列車と切符

今日（20日）はこれからローマ市内を散策する。ローマの格言と言えば「すべての道はローマに通ず」「ローマは一日にして成らず」「郷に入っては郷に従え」とか、今回の世界一周旅行のサブに付け加えたのは「すべての道はローマに通ず」なのだろうか。

ローマの中心部はわずか4~5 km四方である。徒歩で回っても3~4時間、途中疲れたらスポット的にバスなどに乗るとして、得意の一日交通券は購入しなかった。事前に地図でコースを決めておく、その後は成り行きである。

ホテルから、トレビの泉⇒スペイン広場⇒サンタンジェロ城⇒テベレ川に沿って⇒真実の口⇒コロッセオのコースを寄り道と休憩を取りながらおもむろに6~7時間かけて回る。ローマの町の主な通りはご多分に漏れずごった返している。しかし、ちょっと裏通りに行くとなんか一人いない、トレビの泉に行く途中、ちょっとジャルディーニ通り（通り名は後日地図で調査）に入ると人と会うことがなかった。夜間は危なそうな気配、プンブン匂う。

トレビの泉、再びローマに来たければ、後ろ向きにコインを投げることになっている。私も投げた。ただ、3回来たければコイン3個投げる、ことはいけない。もし、あなたが今の恋人、伴侶と別れたければ3枚投げるとよいらしい。こんな言い

伝えは日本のどこかにもあったような気がするが、どこだか記憶の引き出しからは出てこない。もちろん私の投げた数は1枚である。それにしても、世界に冠たる観光地である。



トレビの泉と観光客



トレビの泉から少しのところにスペイン広場がある。映画「ローマの休日」で有名な場所でもある。わが故郷高知では「リョーマの休日」ともじって、観光客の誘

致をしている。この階段でジェラート？を食べる

(高知ではアイスクリンに限る) シーンも映画にあったと思う。しかし、ここも観光客が多いせいか階段では飲食禁止、長くとどまっていると監視員が来て移動を促していた。この広場の正面からのコンドッティ通りは有名ブランドの店が軒を連ねている。我妻、娘たちの御用達のルイビトンもあった。事前にわかっていたら天の声があったかもしれない。もし、こんなところに彼女達を連れてきたら、いかなるバリエーションも外されて撃墜されるに違いない。世の男性諸君くれぐれもご用心。



スペイン広場とコンドッティ通りを望む

コンドッティ通りのブランド店をしり目に見ながら少し歩いていると女性警官を見かけた。さすが、イタリア！超恰好がよすぎる、絵になる。ちょっと捕まって説教も食らってみたいが、怖いので遠くから写真を撮らしてもらった。

ごめん！



超恰好がよすぎる女性警官を見かけた場所の三差路を右にとり、直進するとテベ

レ川にでる。手前にミュージアムがあり外側から少し覗いたが、ま、先に行ってみよう。テベレ川を渡り右岸を少し下るとサンタンジェロ城が見えてくる。川沿いに、ちょっと違和感のあるガソリンスタンドと、いわゆる蚤の市+土産物屋が並んでいる。写真は違和感のあるガソリンスタンドだがどこに違和感があるかお分かりであろうか？土産物屋ではイタリアらしき、ちょっと芸術感のあるものがよくそろえられていた。また、キーホルダーなど小物はすべて1ユーロと分かりやすい。同じデザイン（国旗のみ異なる）のキーホルダーがミュンヘンでは4ユーロしていた。イタリアの物価はかなり安いらしい。10個ほどまとめて買ったが、その中に栓抜きのキーホルダーも含めておいた。ミュンヘンのスーパーでビールを購入しようとしたが瓶入りで栓抜きがないと開けるのに難しい。ヨーロッパでは日本の缶入りビールと違い、環境にやさしいビンが主流のようである。



違和感のあるガソリンスタンド

サンタンジェロ城を見学しようと思ったがサンタンジェロ橋まで行くと、すぐ前にあるバチカン市国のサン・ペエトロ寺院がまっすぐに見える。で、サンタンジェロ城は通過、カトリックの総本山に向かう。バチカン市国は世界で一番面積の少ない国であることはよく知られている。ローマ市内にあり面積は0.44km²これを開平すると約700m四方に満たない、もちろんローマにある世界遺産の一つである。寺院の近くには日本の門前町と変わらず、土産物屋が多かった。世界を相手にする門前町であろう。ちなみに、私はブッディストである。



サンタンジェロ城

バチカン市国



イタリアと言えば最初に何を思い出すだろう。その中でジェラートを思い出すのは少数派と思うが、誰かがジェラートと言うと「なるほど」の賛同が多数得られると思う。もちろん、孫たちはこの意見には間違いなく賛成するはずである。サン・ペエトロ寺院の横の人通りの少ない小路を歩くとジェラート屋さんがあった。覗くといかにもイタリア系のなかなかの美人さんで、しかも人懐こくジェラートの説明をしてくれる。いささか鼻の下が長いジジイである。何を注文したのか、その時いくら払ったのか、脳裏からもう溶けてなくなってしまったが、写真で見るときくと彼女のおすすめ三点盛りを注文したに違いない。ジェラートを食べるとイタリアでのノルマは半分達成したと思う。



再びテベレ川に出る。この川沿いに下ってゆくとローマの風景に溶け込んでいる石橋がいくつかかかっているが、もうそろそろこのあたりで小用を足したくなった。海外に行く時の注意事項の一つにトイレ事情がある。下痢には食べ物に十分注意する、飲みすぎに注意することだが、小用にはトイレがあるたび（チップトイレは多少間引き）にそこでマーキングをすることになっている。今回、考えてみればそれらしい施設に入っていないのでマーキングのチャンスがなかった。そこで、周りをキョロキョロするとトイレの標識を見つけた。

この標識に従って行くが、辿り着かない、近くに来ているはずなのに、である。その時、とてもトイレとは思えないイタリア風デザインの中にWCの文字を見つけた。日本の概念でトイレを探すと、なかなか見つけることができないものである。ちなみに、このトイレはチップトイレであった。

用を足し、これで安心をしてテベレ川沿いに再び歩き始める。川にはアーチ型の石橋が多くあり、石の文化を物語っている。橋の上から川を見ると堰が見える。遙か昔に用水取水に作られたものではないだろうか。ローマの都市が栄えたのも石と水の利用に長けたおかげかもしれない。人々が生活する上に水とのかかわりは使



地下公衆トイレ

用後の下水としての対応であろう。一説に、奈良の藤原京は下水の不備で遷都を余儀なくされたともいわれている。「ローマは一日にして成らず」水を通して垣間見た感じがする。



石で作られたアーチ橋と堰



市内の所々で見かけた水道



吸い殻入れになっている残念な石畳

川の中州、ティベリナ島を抜けて川沿いに進むと前方に塔が見えてくる。その手前で行列ができていた。「真実の口」と言われる、うそをつくと口から手が抜けなくなるという観光スポットである。待ち時間を聞くと1時間はかかるというので外からの写真を撮ることにした。心にやましいことは決してないので、口の中に手を入れても問題はないのだが、口を開けて1時間も待ってはいられない。写真の少女は、決してやましいことをしていないように思うが、不安げな顔をしている。もともとこの彫刻は口の部分から水が出ていた、噴水のノズルのようなものだったといわれている。ローマの休日のオードリー・ヘップバーンとグレゴリー・ペックの名演技がなければこんなには有名にはなっていなかったのかもしれない。



ここを後にして、坂道を少し上がると、右手前方チルコ・マッシモの広場の向こうに国連の旗が見える。左手にパラティーノの丘、その向こう側がコロッセオである。コロッセオと並んでコンスタンティヌスの凱旋門がある。この日湿度は少ないが気温はかなり上がっており、この付近には腰を下ろすような所で日陰はほとんどない。たまたま空いた場所で座っていると妙齡の麗しき女性がしんどそうな



コロッセオとコンスタンティヌスの凱旋門

(くたびれた) 顔で近くに来るので少し席を譲った。言葉はわからなかったが、ハグする勢いで感謝された、と思う。今日はかなり歩いたがここからホテルまでは1 kmもなくバスを使うほどでもない。ローマの街並みの雰囲気を楽しみながら、、冷えたビールを思い浮かべながら、、ホテルまで帰ることにした。

暑い中、歩いた後のビールは格別である。ホテル近くの酒屋で、人のよさそうなしかし油断ができそうにない、フレンドリーな店の人に勧められたビールを購入してホテルで飲むことにした。どうも、レモン味のビールがお勧めらしい。もちろん、土産物屋で買った栓抜きキーホルダーがあるから OK である。あて (つまみ) は酒屋の隣でピザを購入、現地のピザはカットしておりいくつかの味を1カットずつ楽しめる。串カツ屋の飲み友に、ホテルの部屋で一人飲みのこと、そしてビールの写真を LINE で送ると、絵になるとの返事をもらった。異国の地での一人ぼっちに、おせいじでもすごくうれしい。味は、レモンテイストのビールは軽くのどを潤すときにピッタリと感じた。乾燥した夏場に飲むビールとしてピッタリかもしれない。



7月21日、本来なら今日はローマからミュンヘンを経由して帰国する予定であった。手違いからミュンヘンであと3日間過ごして帰国する。仕事など、帰国を余儀なくされる場合は仕方がないが、そこは気ままな一人旅である。そう、家族以外邪魔する者はいない！